



2024 春 号

No. 125

～特集～

【流域治水対策の取組】

- ・大阪府
安威川ダム建設事業について
- ・三重県
雲出川水系中村川・波瀬川・赤川等の特定都市河川への指定について
- ・大阪市
流域貯留浸透事業について
- ・豊中市
マイ・タイムライン作成支援ツールについて

～トピックス～

- ・滋賀県
生物生息域に配慮しワンドを残した浚渫事業
～河川シミュレーションを使用した「見える化」～

～ダム巡り～

- ・兵庫県
青野ダム

～インフォメーション～

- ・さらさ担当者 今年1年を振り返って

ページ

河川紹介

- 2 妙法寺川（兵庫県神戸市） …… ㊶

特集

『流域治水対策の取組』

- 3 安威川ダム建設事業について
大阪府 都市整備部 河川室 河川整備課 …… ㊷

- 5 雲出川水系中村川・波瀬川・赤川等の
特定都市河川への指定について
三重県 県土整備部 河川課 …… ㊸

- 7 流域貯留浸透事業について
大阪市 建設局 道路河川部 河川課 …… ㊹

- 9 マイ・タイムライン作成支援ツールについて
豊中市 都市経営部 危機管理課 …… ㊺

トピックス

- 11 生物生息域に配慮しワンドを残した浚渫事業
～河川シミュレーションを使用した「見える化」～
滋賀県 土木交通部 流域政策局 …… ㊻

きんきのダム巡り

- 13 青野ダム
兵庫県 土木部 河川整備課・総合治水課 …… ㊼

インフォメーション

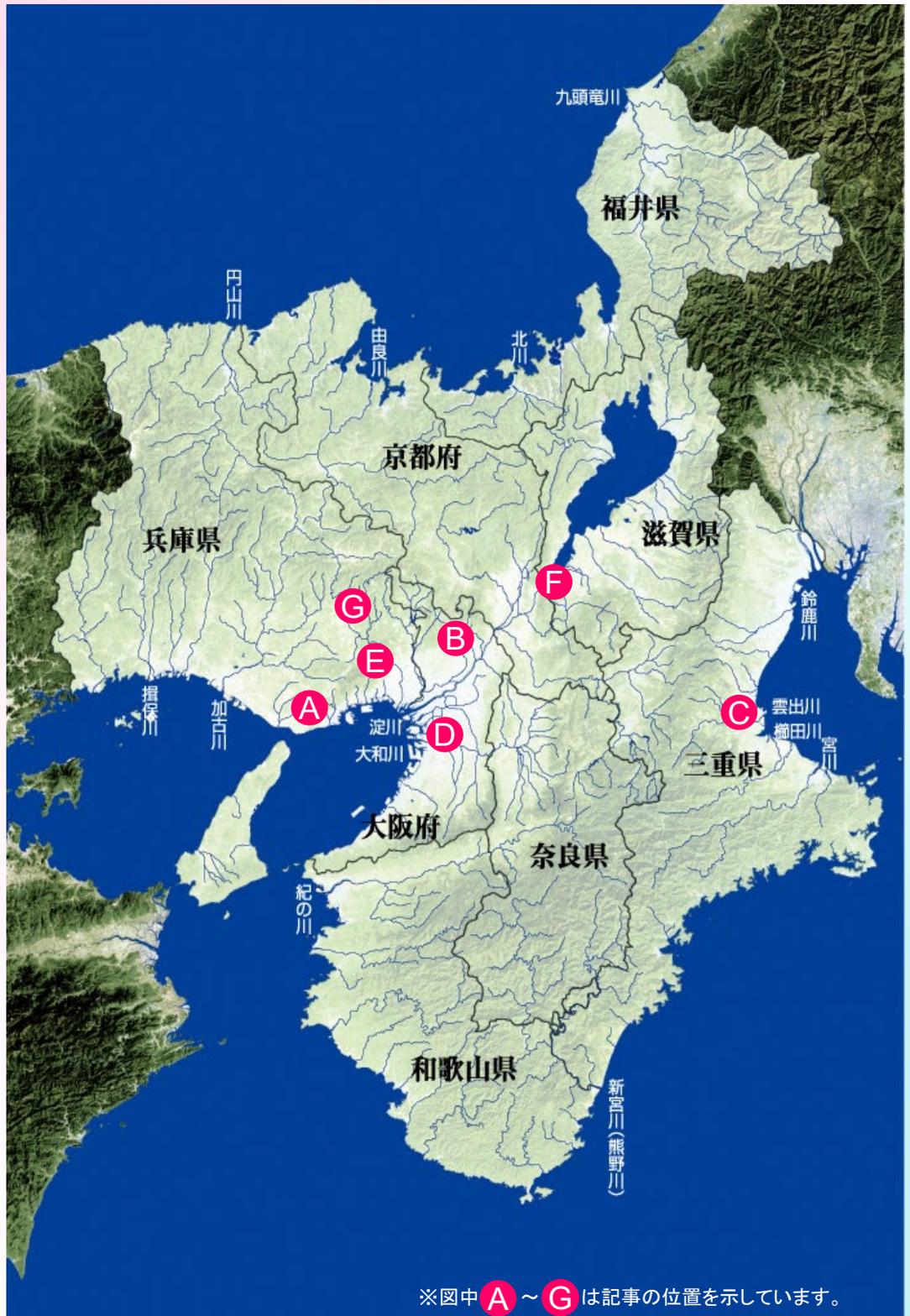
- 14 さらさ担当者 今年1年を振り返って



妙法寺川

妙法寺川（みょうほうじがわ）
 妙法寺川は、兵庫県神戸市須磨区すまを流れる11.81kmの流域を持つ二級河川です。

表紙の写真は、市民が河川とふれあうことができる水辺空間の整備を行った区間であり、春になると河川沿いに約400本の桜が咲き誇る桜の名所として市民に親しまれています。昨年度から「須磨妙法寺川さくらまつり」が復活し、ますます多くの人で賑わっています。



※図中 A ~ G は記事の位置を示しています。



上空から撮影



さくらまつりの様子

須磨妙法寺川さくらまつり

河川に隣接する妙法寺川公園では、飲食の模擬店やゲーム・くじ引き等の子供が遊べる広場が設置され、地元の方々によるブラスバンドの演奏やダンス等のステージイベントも開催されます。今年の開催は2024年3月31日ですので、ぜひお越しください。

あ い がわ 安威川ダム建設事業について

大阪府 都市整備部 河川室 河川整備課

○ 大阪府における治水対策と安威川ダム

大阪府では、平成22年6月に策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、人命を守ることを最優先に、河川改修やダム、地下河川の整備などの「防ぐ」施策を進めるとともに、洪水リスクの周知や河川カメラ、河川水位等の防災情報提供など、府民が適切な避難行動をとることができるよう支援する「逃げる」施策、流域内の既存ストックであるため池の治水活用など流出抑制施設の整備や、水害リスクの周知、立地適正化等のまちづくり施策により土地利用誘導などを行う「凌ぐ」施策を効率的・効果的に組み合わせ、流域全体で治水対策を進める「流域治水」を実践しています。

このうち、「防ぐ」施策の一環として、昭和42年7月の北摂豪雨災害を契機に計画が立案された安威川ダムが完成し、令和5年9月より本格運用を開始しました。



試験湛水の状況（最高水位到達時点 R5.5.8）



安威川ダム完成式典（R6.3.20）

「防ぐ」施策 治水ダム整備（安威川ダム）

○ 安威川流域における流域治水の推進

大阪府では、管理する全154河川を26ブロックに分割した流域治水プロジェクトを令和4年3月に作成し、関係者と情報共有しながら対策内容の充実・強化やフォローアップを実施し、計画的に流域治水を推進しています。

ダムを建設した安威川を含む、神崎川ブロックの流域治水プロジェクトでは、河床掘削やため池の活用等の対策のほか、立地適正化計画の策定により被害対象の減少を図ったり、まるごとまちごとハザードマップの取組等により災害時の避難行動につながる取組を進めています。

また、府内全域で令和5年度に全市町村を対象とした流域治水勉強会（10月）を開催し、モデル流域を選定して関係市町、府内関係部局との意見交換会（12月～1月）を実施しました。勉強会では、流域治水の各施策の内容や助成制度の説明、府内の先行事例を紹介し、流域治水施策の理解促進、機運醸成を図りました。また、意見交換会では、河川整備前後の洪水・内水浸水リスクを把握するとともに、流域内で各主体が実施する具体的な対策の検討及び立案を行っています。



○ 安威川ダム建設事業概要

大阪府北部に位置する安威川では、古くからたびたび洪水被害を受けており、昭和42年の北摂豪雨では61名の死傷者を出すなど甚大な被害が発生しました。安威川ダムは、このような洪水被害を防ぐため、100年に一度の大雨に対応できるように茨木市に治水ダムとして建設しました。ダムの形式は、中央コア型ロックフィルダムで、「洪水調節」、「流水の正常な機能の維持」、および「下流河川の環境改善」を目的としています。

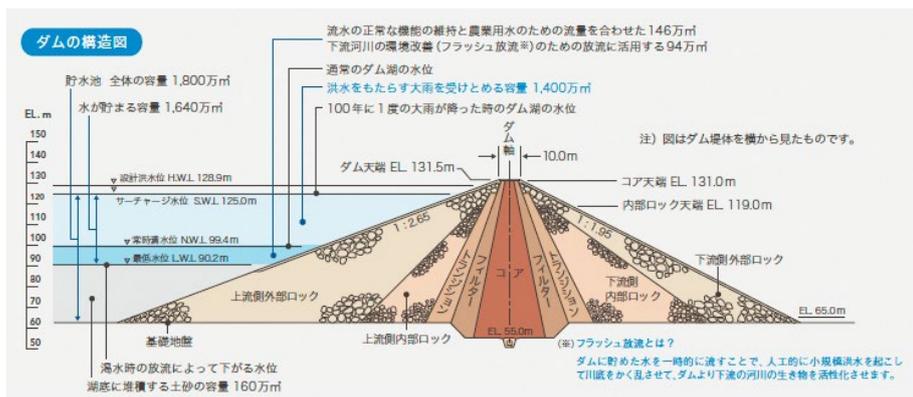
平成26年にダム本体工事に着手し、令和4年8月にダム本体が完成し試験湛水や完了検査を経て令和5年9月から運用を開始しています。半世紀以上にわたった本事業が完了し、令和6年3月20日に安威川ダム完成式典を執り行いました。

【ダムの諸元】

- 型式：中央コア型ロックフィルダム
- 堤高：76.5m
- 堤頂長：337.5m
- 堤体積：222.5万³m

【貯水池の諸元】

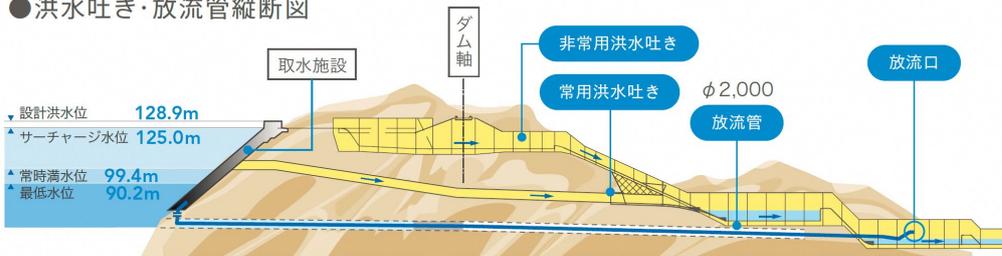
- 集水面積：52.2²km
- 湛水面積：0.81²km
- 総貯水容量：1,800万³m
- 有効貯水容量：1,640万³m
- 洪水調節容量：1,400万³m
- 不特定利水容量：240万³m
- 堆砂容量：160万³m



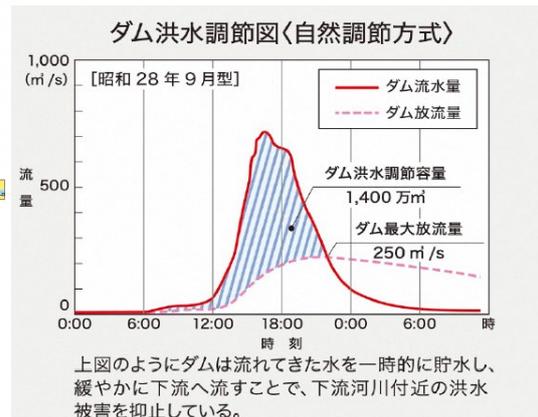
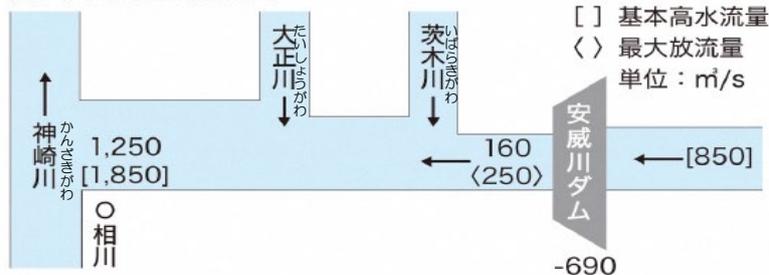
○ 安威川ダムの洪水調節

安威川ダムの洪水調節は、ゲート操作ではなく、貯水位に応じて洪水吐きから自然に流れていく「自然調節方式」を採用しています。100年に一度の大雨の場合では、ダム地点には最大で850³m/sの水が流れ込みますが、そのうち690³m/sをダムにより調節し、残りの160³m/sを放流します。

● 洪水吐き・放流管縦断面図



計画高水流量配分図



○ おわりに

安威川ダムの完成に伴い下流の治水安全度は高まりましたが、気候変動の影響や流域の洪水リスクを踏まえ、域内のあらゆる関係者と引き続き議論し、ハード・ソフトが一体となった流域治水を進めてまいります。

くもすがわ なかむらがわ はぜがわ あかがわ
**雲出川水系中村川・波瀬川・赤川等の
 特定都市河川への指定について**
 三重県 県土整備部 河川課

○ 雲出川水系中村川・波瀬川・赤川について
 雲出川は、三重県の中部に位置し、三重県（津市）と奈良県（宇陀郡御杖村）の県境に位置する三峰山（標高1,235m）に源を発し、八手俣川等の支川を合わせながら東流し、伊勢平野に出て波瀬川、中村川等を合わせて、その後、雲出古川を分派して伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長55km、流域面積550km²の一級河川です。

雲出川水系内に位置する中村川・波瀬川・赤川は、雲出川河口から7km～9km付近で雲出川に合流し、その流域面積は、中村川約85km²、波瀬川約31km²、赤川約8km²、流路延長は、中村川約25.4km、波瀬川約13.3km、赤川約3.3kmの一級河川です。

○ 特定都市河川指定への背景について
 中村川・波瀬川・赤川流域は、雲出川からのバックウォーターの影響等により水害が発生しやすい特性を有しており、内水氾濫等による浸水被害も頻発している状況にあり、施設能力を超えた水災害への対応が急務となっており、河道掘削等の河川整備をより一層加速するとともに、中村川・波瀬川・赤川流域のあらゆる関係者の協働により、流域全体で総合的かつ多層的な水災害対策「流域治水」の考え方に基づく取組を実践していくことが重要となっています。

このため、「流域治水」の実効性を高め、強力に推進するための法的枠組みである「特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律」の全面施行に伴い、令和5年3月31日、法改正後中部管内初の特定都市河川及び特定都市河川流域に指定しました。



図2 平成21年10月洪水浸水状況

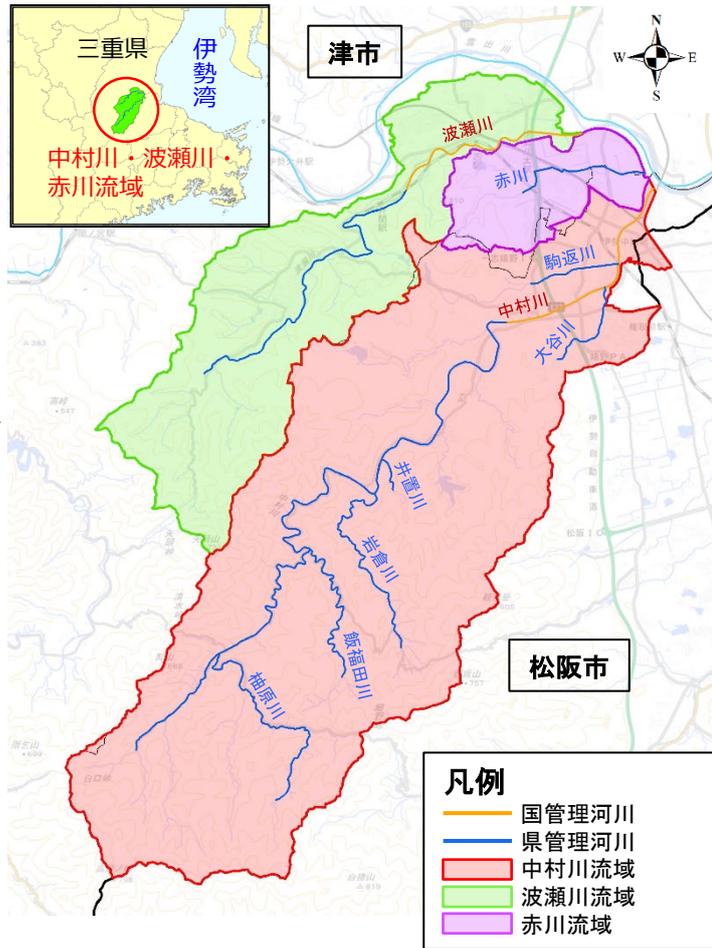


図1 流域図

表1 特定都市河川指定河川一覧

河川名	区間		
	上流端	下流端	
国土交通大臣指定	中村川	松阪市嬉野上小川町字大広1463番地先	雲出川への合流点
	駒返川	松阪市嬉野島田町字焼野2365番地先	中村川への合流点
	天谷川	松阪市嬉野薬王寺町字奥田1217番地先	中村川への合流点
	井置川	左岸：松阪市嬉野矢下町字小坂893番2地先 右岸：松阪市嬉野矢下町字松川原1114番地先	中村川への合流点
	岩倉川	松阪市与原町字森ノ上990番地先	中村川への合流点
	飯福田川	松阪市後山町字新道804番2地先	中村川への合流点
	柚原川	松阪市柚原町字柏原1365番1地先	中村川への合流点
	波瀬川	津市一志町波瀬字広垣内7136番1地先	雲出川への合流点
知事指定 三重県	赤川	左岸：津市一志町小山字新中野1508番地先 右岸：同市同町小山同字1518番地先	雲出川への合流点

許可が必要! 特定都市河川流域で雨水浸透阻害行為を行う際には**流出抑制のための許可が必要です。**

▶特定都市河川流域内の宅地等以外の土地で行う**1,000㎡以上の雨水浸透阻害行為**（土地の締めや開発などにより雨水を溜み込みにくくする行為、すなわち、雨水が河川に流れ込む量を現在よりも増やす行為）は、三重県知事の**許可が必要**です。
 ▶許可にあたっては、技術基準に従った**雨水を貯めたり溜み込ませたりする対策が必要**です。

雨水を貯めたり溜み込ませたりする対策が必要です。

以下のような、雨水浸透阻害行為（1,000㎡以上の場合）を行う際には…

- 例えは **耕地に建物や駐車場を作る**
- 例えは **耕地に駐車場を作る**
- 例えは **林地に運動場を作る**
- 例えは **原野に資材置場を作る**

例えは **透水性舗装**

例えは **浸透ます**

例えは **雨水貯留施設**

手続きフロー図

▶雨水浸透阻害行為許可申請については、事前相談、許可申請の手順を踏んでください。

許可の相談窓口

開発地	申請先	相談窓口	連絡先(TEL)
津市内	三重県知事	三重県土木整備部 河川課 河川計画班	059-224-2682
松坂市内		※許可申請書の提出先は最寄りの建設事務所となります。	

詳しくはこちらをご覧ください。
 (三重県土木整備部河川課)

雲出川中流部流域水害対策協議会準備会

問い合わせ先：中部地方整備局三重河川国道事務所 TEL:059-229-2211
 三重県土木整備部河川課 TEL:059-224-2682
 津市建設部河川排水管理課 TEL:059-229-3072
 松本市建設部建設総務課 TEL:0598-53-4142

図3 特定都市河川リーフレット

○ **雨水浸透阻害行為について**

特定都市河川流域では、宅地等以外の土地で行う1,000㎡以上の雨水浸透阻害行為（土地からの流出雨水量を増加させるおそれのある行為）に対し、知事の許可を受け、流出雨水量を増大させないようにするための対策工事（雨水貯留浸透施設の設置）が義務付けられます。

浸水被害が多発している下流域のみならず、流域全体に対して、流出雨水量を現在よりも増加させる行為への対策を義務付けるとともに、流出雨水量を現在よりも減少させるための雨水貯留浸透施設の整備等を促進させることで、流域の貯留浸透機能を効果的に向上させ、浸水被害の防止・軽減を図ります。

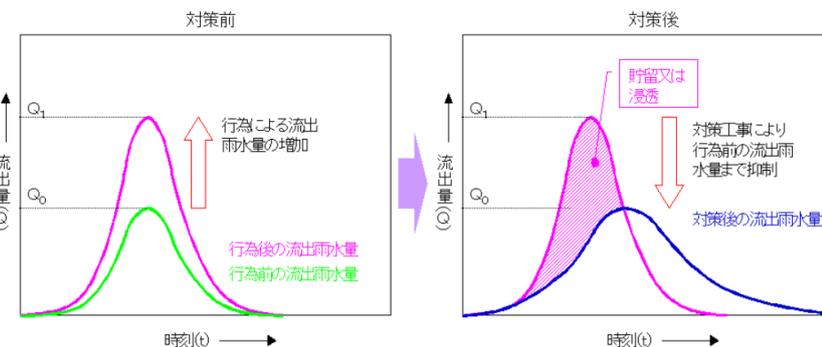


図4 対策工事による効果

○ **流域水害対策計画について**

特定都市河川流域における流域水害対策を一層推進するため、関係機関が一堂に会する「雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策協議会」を設立し、「流域水害対策計画」の策定に向け、令和5年7月27日に第1回雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策協議会を開催しました。

流域水害対策計画では、浸水の発生を防ぐべき目標となる降雨等を踏まえ、流域全体で各々が担う目標量の検討を行い、その上で、河道等の整備に加えて、流域における雨水貯留浸透対策や土地利用の方針（貯留機能を有する土地の保全、著しく危険なエリアでの開発規制や建築規制）などの浸水被害防止・軽減対策を位置づけ、水害リスクを踏まえた土地の利用や防災まちづくりの検討を行います。

○ **おわりに**

流域治水を計画的、効果的かつ早期に進めることができるよう中村川・波瀬川・赤川流域のあらゆる関係者の協働による総合的な浸水被害対策を定め、水害に強いまち（流域）づくりを目指し、関係者が一体となって流域治水を本格的に実践し、流域の早期かつ確実な治水安全度の向上を図っていきます。



図5 第1回雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策協議会開催状況

流域貯留浸透事業について

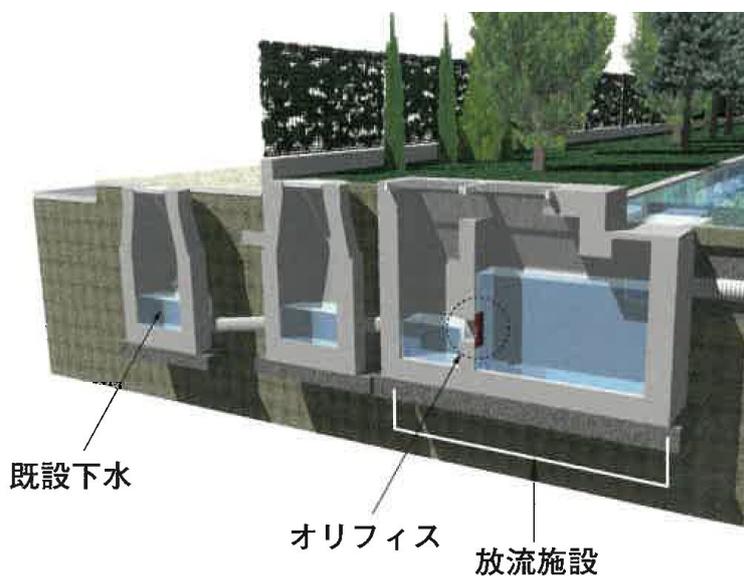
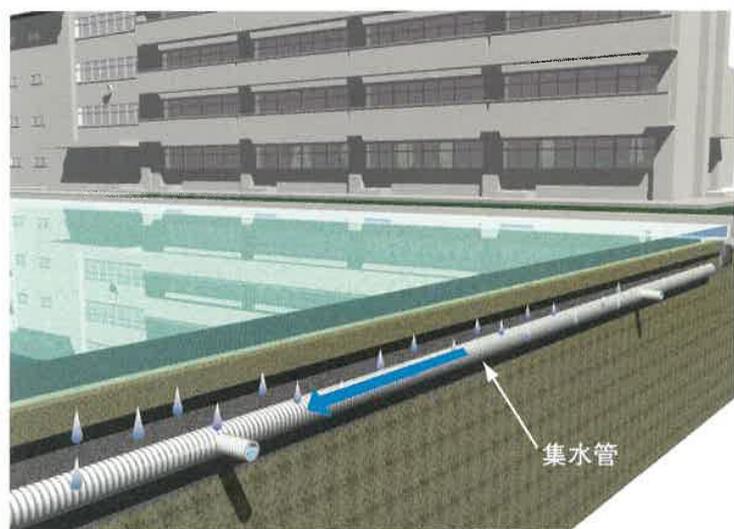
大阪市 建設局 道路河川部 河川課

○ 事業概要

本事業は、^{ねやがわ}寝屋川流域総合治水計画に位置づけられており、流域対応施策の一環として実施しています。

事業内容としては、大阪市下にある学校・公園のグラウンドに雨水を一時的に貯留することにより、下水や河川の負担を軽減し雨水の流出抑制をはかっています。本市では、昭和59年度より流域貯留浸透施設の整備を開始し、これまでに小・中学校等の学校施設33箇所・公園4箇所の計37箇所を整備しており、貯留量約59,000 m³（令和5年度末時点）の貯留施設が完成しています。

また、直近の実績としては、平成18年度・21年度に中学校での整備、23年度以降はこれまでに事業を実施した箇所の調査点検を実施しています。



○ 流域貯留浸透施設の仕組み

大雨時に雨水を一時的に貯められるように、校庭を取り囲むかたちで腰掛程度の高さの壁を設け、壁に沿って側溝を配置しています。なお、貯水時の安全性を考慮して、最大水深が30cmを超えないように設計しています。

雨水は、校庭周囲の側溝や地表下に縦横に張り巡らされた透水性のある集水管を通じて、放流施設へと集められます。この集水管を設置することにより、雨が降りやんでからのグラウンドの排水性が向上します。

放流施設に流入した水は、オリフィスと呼ばれる小さな穴によって放流量を調節しながら既設の下水管へゆっくりと放流されます。

校庭でたくさんの水を貯めることにより、大雨が降っても周辺の下水管がすぐに満杯になってしまうことが避けられるようになります。



雨水が集水管へ集められている様子

○ 課題と今後の方針

本市においては、現在、大阪市域で約201万㎡の雨水貯留を計画していますが、貯留実績は計画目標達成には届かず、事業推進にあたっては、より効果的・経済的な方策により施設整備を進めていく必要があります。

具体的には、過去に浸水被害のあった箇所を抽出し、その中でも施設を整備することにより流出量を抑える率（ピーク流出量のカット率）が大きい箇所から順位付けを行うことにより、効率的・経済的な流出抑制をめざしていきます。

また、雨水流出抑制対策は、洪水流出量のピークカットに寄与し、近年多発しているゲリラ豪雨等への対応や浸水頻発箇所といった局地的な対応には、より効果的であり、今後はこうした局地的に対策が必要な箇所への対応を図っていくために、必要箇所の選定と関係先調整を十分行った上での実施を検討していく予定です。

また、流域貯留浸透施設は、昭和59年から整備を実施しており、施設の老朽化に伴う損傷状況が見受けられるため、今後の維持管理体制の整理が必要であると考えています。

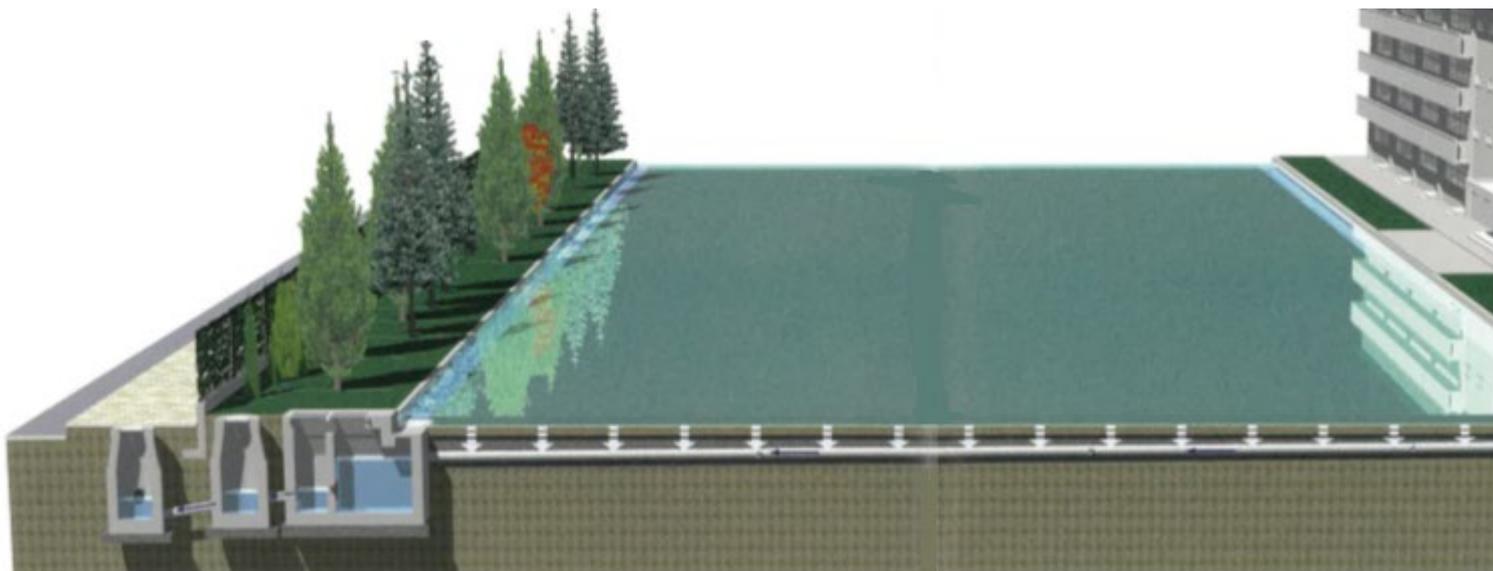


平常時の流域貯留浸透施設（^{うりわり}瓜破中学校校庭）



平成11年6月29日豪雨時の流域貯留浸透施設（同上）

流域貯留浸透施設イメージ断面図



○ おわりに

河川行政において、治水対策への取り組みは市民の安全を守るうえでも重要な事項です。本市においても実績の積み上げや施設の老朽化など様々な課題がありますが、それらの課題解決に向けて、引き続き、水害に強いまちづくりを目標に治水対策に取り組んでいきたいと思っております。

マイ・タイムライン作成支援ツールについて

豊中市 都市経営部 危機管理課

○ 近年の豊中市の取り組みについて

豊中市ではこれまで、平成18年に発生した大阪府北部豪雨や、平成30年台風第21号、令和2年7月の豪雨など多くの風水害を経験してきました。

そのため、市民の自助力を高めることを目的として、令和3年11月に「総合ハザードマップ（以下、HM）」を作成しました。

このHMは、従来の計画規模（おおむね200年に一度の降雨量）から想定し得る最大規模（1000年に一度を上回る降雨量）の区域に拡大しており、高潮や土砂災害などの災害も加えています。また、このHMを市民に周知するため全戸配布を行ったほか、HMの「音訳版」と「点訳版」も作成し対象者に配布することで、障害のある人への情報提供も行っております。さらに、インターネットでもHMを確認できるよう、公開型GIS「地図情報とよなか」にデジタルハザードマップを公開し、市民への防災啓発を積極的に行っています。



しかしながら、本市には複数の河川が存在するとともに、高潮や土砂災害など注意すべきハザードも多いことから、ハザード情報が分かりにくいというご意見を頂くことも少なくありません。そこで、住所を入力するという簡単な作業を行うだけで、そこに存在するハザード情報を瞬時に把握するとともに、同時にマイ・タイムラインを作成することができる「マイ・タイムライン作成支援ツール」を構築しました。

○ マイ・タイムラインとは



マイ・タイムラインとは、住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）です。台風の接近による大雨などの風水害はある程度事前に予測ができるため、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。

本市では「豊中市浸水ハザードマップ」や「豊中市総合ハザードマップ」、市ホームページ等でマイ・タイムラインについて周知しています。

避難に時間を要する人用 **マイ・タイムライン** 【住所：庄内豊町4-29-1】

避難に時間を要する人用	2～3日前	1日前	5～6時間前	2～3時間前	0時間
避難準備	大雨に関する情報	応急注意情報	高潮警報発令	避難指示	緊急安全確保
気象情報		大雨注意報 洪水注意報	高潮警報 河川氾濫警報	応急危険情報	災害発生
私の行動	マイ・タイムラインを再確認	移動手段を検討・確認	避難開始 → 避難完了	万一大変な場合は速やかに避難!!!	命を守る最善の行動

○ マイ・タイムライン作成支援ツールの特徴

従来、マイ・タイムラインの作成には独自に調べること（自宅位置の浸水深や危険区域の有無等）が多く、かなりの時間を必要としていました。

そこで、運用中の公開型GIS「地図情報とよなか」の機能を拡張し、簡単で少ない操作手順により、作成することを可能にしました。

本サービスは、PC・タブレット・スマートフォンからWebブラウザにアクセスすることで利用できます。また、任意の住所を指定するだけで、各河川ごとの詳細な浸水深や土砂災害の有無等を確認できるほか、災害時の自分の行動や避難場所などを自由に入力することができます。このように、本ツールを活用することによって、災害時の行動を予め整理し、逃げ遅れリスクの軽減に繋げることができます。

システムの作成にあたっては、デジタル田園都市国家構想交付金などを活用しました。



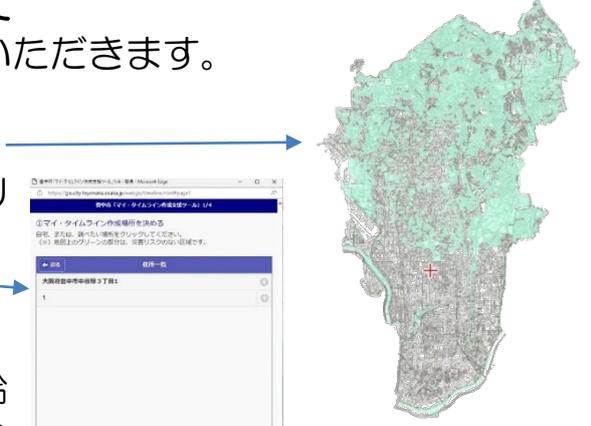
○ マイ・タイムライン作成支援システムの方法について

まずはシステムにアクセスして、利用規約に同意していただきます。

① 作成箇所の選択

豊中市域の地図より作成したい地点を選択します。緑表示されているところは、災害リスクが無いエリアになります。

また、住所から地点を選択することもできます。



作成箇所を地図から選択

② タイムラインごとの自分の行動・避難所の選択

タイムラインを作成（使う）人が、要配慮者（高齢者や避難に不安を感じる方）かを確認し、事情に合わせた行動計画を作成します。

2～3日前と1日前の行動内容を選択し、近くの避難場所を指定します。避難場所までの移動時間も選択可能なため、使う人に合わせたタイムラインとなるようカスタマイズできます。



作成箇所を住所から選択

③ 完成

選択した行動内容や避難先を反映した、オリジナルのマイタイムラインが完成します。

これまで1250件のアクセスがあり、自治会の避難訓練や市の防災訓練で活用してきました。



行動内容を選択

避難先と所要時間を選択



○ おわりに

災害はいつ起きるか分かりません。そのため、いつどのような行動を取り、どこに避難するのかを、あらかじめ決めておくことはとても重要です。これからもより市民の安心・安全の充実に取り組み、「住み続けたい・住みたい」と思っていただけるまち、選ばれるまちをめざします。

生物生息域に配慮しワンドを残した浚渫事業

～河川シミュレーションを使用した「見える化」～

滋賀県 土木交通部 流域政策局

浚渫・伐採を施工するにあたって、希少種の生態系保全に配慮した事例

○ 事業概要

- ① 河道内に堆積した土砂や繁茂した樹木があるため、緊急浚渫推進事業債を活用し浚渫しました。
- ② ドローンによる空中写真測量を行い、三次元データによる地形情報を把握しました。
- ③ 河道中央のワンド^{※1}に希少種が存在することがわかり、ワンドを保全する必要があった。iRIC^{※2}を用いた河川シミュレーションにより掃流力を予測・可視化しワンドが存続できる形で生態系保全に配慮しました。

※1 ワンドは、川の本流とつながっている小さな池のような環境で、安定した棲み処として様々な生物が生息している。
※2 iRICとは、河川の流れ等の現象をシミュレーションするためのソフトウェアのこと。

○ 事業実施状況

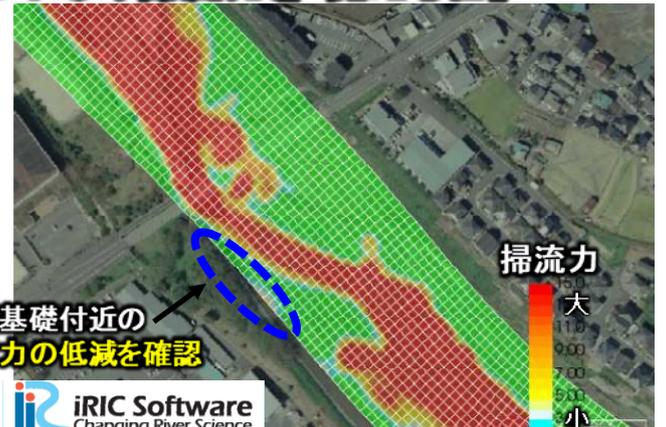
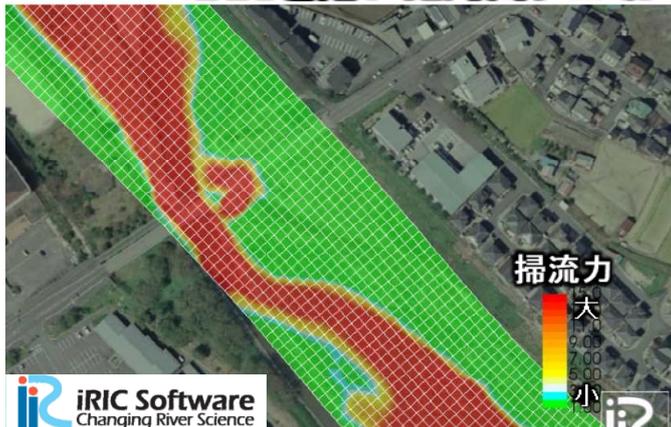
- ① 土砂堆積により滞筋が左岸側に寄り水衝部となっているため、左岸護岸基礎が洗堀。
- ② ワンドを残しつつも左岸護岸への掃流力を抑え護岸基礎の洗堀が発生しないか、河川シミュレーションにより予測・可視化した上で浚渫を実施。

Before

After



iRICを用いた河川シミュレーションにより掃流力を「見える化」



○ 事業効果

- ① 浚渫工事により河川の流下能力を回復させ、洪水被害リスクの低減を図りました。
- ② 従来の浚渫であれば一気に全面掘削するが、希少種の生態系に配慮してワンドを残しました。

希少種等の生物への影響を低減させ、河川環境を保全・再生する多自然川づくりの取組を進めました。



ドローンを用いた地形測量面積は約42,000m²、空撮の所要時間は10分以内!



浚渫後の掃流力を確認。iRICを用いれば「誰でも簡易に」見える化が可能!

○ おわりに

一定断面にする従来の浚渫とは異なる河川環境へ配慮した浚渫においては、

- ① 河道の面的な三次元情報を詳細に把握する必要がある。ドローンを使用し地形把握を行えば、効率的な地形把握、精度の高い浚渫土量の把握が可能である。
- ② どのような影響があるかを把握する必要がある。河川シミュレーションにより河川流や掃流力を可視化すれば、地域住民や関係者とのコンセンサスを得やすくなり、治水と河川環境の両面に配慮した浚渫事業を推進できる。

(共同研究者) 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
兵庫教育大学学校教育研究科

希少種保護の観点から、具体的な河川名等の情報を伏せて記事を作成しております



流域面積	51.8km ²
型式	重力式コンクリートダム
堤高	29.00m
堤頂長	286.085m
堤体積	56,500m ³
総貯水容量	15,100,000m ³
有効貯水容量	14,100,000m ³

あおの さんだしかも 青野ダム (兵庫県三田市加茂)

青野ダムは、むこがわ武庫川沿川の洪水対策、ほくせつ ほくしん北摂・北神地域の水道水源の確保を目的として建設されました。たんすい湛水面積は県下で1番の広さを持ち、貯水池周辺は、公園が整備され、地域のみならず阪神間の人々の憩いの場として利用されています。

また、生物にやさしい環境を造り出すとともに生態系回復のため、ダム水環境改善事業により、魚がダム湖まで遡上できるように「多自然型魚道」を整備しています。

この魚道上流部には、「自然の水族館」があり、魚道側壁の観察窓から魚類の遡上状況や魚道の仕組みなどを学ぶことができます。

「多自然型魚道」と「自然の水族館」は毎年7月から10月までの間、一般開放をしております。事前の申込みは不要ですので、ぜひお気軽に見学にお越しください。

※（開放時間：10時～16時 閉鎖日：毎週月曜日）

ホームページ→<https://web.pref.hyogo.lg.jp/hnk09/aonodam05.html>



兵庫県マスコットキャラクター
はばたん

兵庫県 土木部
河川整備課・総合治水課

さらさ担当者 今年1年を振り返って

○兵庫県

・今年度は、浸水被害軽減のための地下貯留管整備や魚道を整備したダムを紹介させていただきました。引き続き、河川等にかかる情報発信を行っていきます。

○奈良県

・さらさを通して他府県市様の取組を知ることができ、良い機会になりました。

○京都府

・流域治水対策など各自治体の取組の情報が得られ、また、本府の取組がPRでき、役立ちました。

○滋賀県

・例年、参加者募集と開催報告の記事を掲載している**淡海の川づくりフォーラム**は県外からの参加も大歓迎です。令和6年度も開催予定なので、川や水辺にまつわる活動をされている皆さんにご周知いただければ幸いです。



○堺市

・「さらさ」の記事作成、本当に大変でした。相談にのって頂いた地整の担当さま、ありがとうございました。

・堺市では川沿いでのイベントに力を入れています。イベントの主催者・参加者募集中☆

○京都市

・「さらさ」について、京都市では題材の選択肢が少なく、記事の作成に苦労しました。
・河川管理について、京都市内では、災害の対応がありませんでした。次年度も自然災害が少ないように願っています。

○和歌山県

・現場研修会で、普段できない建設中のダム工事見学や他自治体の皆さんとの交流など貴重な体験ができました。

○福井県

・一年間お世話になりました。ぜひ開通した北陸新幹線で福井に遊びに来てください！

○大阪府

・流域治水の現場見学や各自治体の取組事例を知れたなど、大変貴重な経験ができました。



○神戸市

・他都市の河川事業を知ることができたり、ダム建設現場を見学できたり勉強になりました。

○三重県

・今後も流域治水対策の取組を進めるため、川の情報誌さらさを通して情報発信に努めていきます。

○大阪市

・他自治体の取り組みや、イベント内容などの詳細を知れたほか、自身の知識向上にもつながり、勉強になった1年でした。

○近畿地方整備局

・さらさだから知ることができた取り組みがありました。かわの面白い情報を更に取り上げたいです。

■編集後記

年度末のお忙しい中、各府県市様におかれましては、ご協力いただきありがとうございました。紙面をお借りしまして御礼を申し上げます。

毎回各府県市様における興味深い取組等学べるため、今後もさらさを通じて情報共有・情報発信の場として活用いただければと思います。

編集担当:神戸市 建設局 河川課

編集・発刊 : 三重県 福井県 滋賀県 京都府 京都市 大阪府 大阪市 堺市 兵庫県 神戸市 奈良県 和歌山県 国土交通省近畿地方整備局